

Dell EMC DataIQ : データセット管理

非構造化データセットの管理と状況把握

ポイント :

- **統合された単一の画面**、データセンターおよびクラウドにあるファイルやオブジェクトデータに関する分析情報を確認できます
- **高速検索とインデックス機能**、データに「アクセスせずに表示」が可能です
- **データ モビリティ機能**、ファイルとオブジェクトのストレージ間の双方向移動が可能です
- **セルフサービス機能**、コンテンツの所有者によるハイパフォーマンス向けファイルストレージからオブジェクトアーカイブへのデータの移動を許可します
- **目的別のメモリ内データベース**、最適な分析パフォーマンスに対応します
- **レポート機能**、使用頻度が少なく休眠状態で冗長なデータのコストをチャージバック/ショーバックビューやコストリカバリーレポートで明確に表示できます
- **データにアクセスせずにファイルを表示**することで、データの安全性を確保します
- 独自の**プラグイン エコシステム**で、ユーザーは DataIQ の分析情報に基づいた行動が可能になります
- **DELL EMC の非構造化ストレージシステム**、PowerScale、ECS、PowerStore などの他、サードパーティ製プラットフォームとも連携するよう設計されています
- **PowerScale クラスタ モニタリング機能**も利用できます (詳細については、『Dell EMC DataIQ: Storage Monitoring』ドキュメントを参照)

データへの対応 : チャンスと課題

非構造化データの増加は弱まることなく、これは、ビジネスを変革し、この新しいデジタル経済で成功を収めようとしている組織にとって、非常に大きなチャンスとなっています。

非構造化データの多くは、イノベーションと競争力の差別化を生み出す源ですが、それを効果的に活かすことは困難です。今日、多くの組織で、データは多様なストレージプラットフォームにわたって頻繁に分散され、特定のアプリケーションに特化したインフラストラクチャ「サイロ」に閉じ込められているものもあれば、オンプレミスとクラウドの両方の環境に保存されているものもあります。この無秩序な状態のために、IT 管理者やビジネスユーザーがデータについて、次のような基本的な質問に答えられないこともよくあります。データはどこにあるのか？クラウドにあるのか、それともエンタープライズストレージプラットフォームのどこにあるのか？IT 部門に負担をかけずに自分の部門で必要なデータを見つけるにはどうすればよいのか？プロジェクトで効果的に共同作業を進めるためにどうやってデータにアクセスすればよいのか？

Dell EMC DataIQ でデータを完全に管理する

Dell EMC の DataIQ があれば、これらを含むたくさんの質問に答えることができます。DataIQ データセット管理およびインサイト ソフトウェアにより、組織は異機種混在ストレージシステムとクラウド全体にわたる非構造化データ (ファイルおよびオブジェクト) を検出、理解し、それに基づき行動できるようになります。Dell EMC PowerScale、ECS、サードパーティ、そしてクラウドストレージの高速検索機能と統合ファイルシステムビューを提供する DataIQ によって、企業は、単一の画面で非構造化データをすべて可視化し、データが閉じ込められたサイロを効果的に解体することができます。

ビジネスユーザーやコンテンツ作成者には、DataIQ は、ファイルを検出し、使用し、最も適切なストレージ階層 (オールフラッシュまたはアーカイブなど) にファイルを移動することができるセルフサービス機能を提供します。DataIQ は、統合されたグローバルファイルシステムビューなしではアクセスが困難な、数十億のファイルやフォルダーのインデックスを作成できるデータベースによってこの処理を行います。IT 管理者には、DataIQ は、ストレージコストを管理し、ファイルをすばやく見つけ出し、ストレージインフラストラクチャの使用状況について正確に報告することができる機能を提供します。



主な特長と機能

単一の画面 : DataIQ は、オンプレミスとクラウド内の異機種混在ストレージ プラットフォーム全体を表示することで、データ サイロに関連する課題を取り除きます。非構造化データセットが単一の画面に表示されるため、ユーザーはファイルに注目してデータの状況を把握することができ、直感的な操作が可能になります。

高速スキャンとインデックス作成 : DataIQ の最適化された、ほぼリアルタイムのスキャンと高速ファイル インデックス作成によって、プロジェクトとユーザー情報が瞬時に利用できるようになります。異種ストレージ プラットフォーム全体を対象とした強力な検索機能を使用すると、ユーザーはデータがどこにあっても、数秒で見つけ出すことができます。

属性のタグ付け : DataIQ は、属性を「タグ付け」し、そのタグを使用してストレージ システム全体にわたり何百万ものファイルにクエリーを実行できます。このため、ビジネス ユーザーと IT 部門は、真のビジネス コンテキストでデータを可視化し、ストレージ環境内でコストを最適化することができます。

データの移動 : DataIQ は、ファイルとオブジェクトのストレージ間での双方向データ移動をシンプルにします。ビジネス オーナーは、セルフサービスのアーカイブ機能を使用して、ファイルをオンプレミスまたはクラウド内の最も適切なストレージ階層に移動することができます。

レポート作成 : DataIQ を使用すると、IT 部門とストレージ管理者は、環境についての理解を深め、ストレージ コストをより効率的に管理することができます。また、使用頻度が低く休眠状態のデータや冗長なデータにかかる真のコストについてのレポートを作成し、チャージバック/ショーバック ビューまたはコストリカバリー レポートを生成することができます。IT 部門は、プロジェクトごと、さらにはユーザーごとにストレージ使用率のレポートを作成し、どのようなアクションを行う必要があるかを判断できます（重複ファイルの削除、ダーク データへの適切なガバナンス ポリシーの適用など）。

DataIQ のプラグイン エコシステムが組織のデータ活用の幅を広げる :

- **Data Mover** : Data Mover を使用すると、的確なアプローチで、特別に選択されたファイルやフォルダーをネットワーク ファイルシステムから S3 やその他のターゲットに転送することができます。このプラグインを使用すると、オンプレミスのストレージ プラットフォームからクラウドにデータを移動したり元に戻したりできるため、プロジェクトとユーザーが適時に正しい場所にある適切なデータにアクセスすることができます。
- **Duplicate Finder** : Duplicate Finder プラグインは、ボリュームとフォルダー全体で冗長データを見つけます。これによって、ユーザーは重複ファイルを削除し、コストを削減し、ストレージ インフラストラクチャを合理化することができます。
- **Audited Delete** : Audited Delete を使用すると、IT 部門とデータ マネージャーが、削除をリクエストしたユーザーの記録を保持できます。これにより、ボリュームからデータを積極的に削除しているユーザーがわかります。重要なデータが失われた場合にとるべきアクションのリストも用意されています。
- **Preview** : Preview プラグインを使用すると、DataIQ ユーザーが選択した特定のファイルのサムネイルが表示されます。サムネイルは通常、そのとき調べているドキュメント、ログ、イメージなどのプレビューです。これにより、データ自体への完全なアクセス権をユーザーに付与しなくても、ユーザーがファイルのコンテキストを確認することができます。

プラグインはデフォルトで無効になっていて、必要に応じて使用できます。

次のステップへ

DataIQ の詳細と、お客様の組織にどのようなメリットをもたらすことができるかについては、Dell EMC のセールス担当者または認定販売店にお問い合わせください。DataIQ には、固有の PowerScale クラスタ モニタリング機能もあります。この独自の機能の詳細については、関連ドキュメント（『[Dell EMC DataIQ: Storage Monitoring](#)』）を参照してください。

また、DataIQ を活用した「データ ファースト」アプローチを採用して非構造化データを管理する方法について詳しく説明している [DataIQ の Web サイト](#) もあわせてご覧ください。



詳細は[こちら](#) Dell EMC
DataIQ ソリューションについて



Dell EMC エキスパートと
つながる



#DellEMCStorage
で会話に参加